

# 廃プラ焼却炉の新モデルを発売

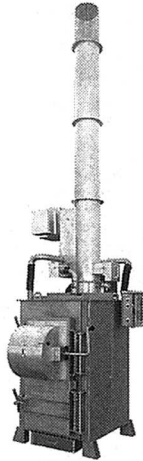
## 燃焼・耐久性など大幅アップ

### DAITO

小型焼却炉の製造・販売を手掛けるDAITO(愛知県瀬戸市、井上滋樹社長、☎0561・21・3111)

は、廃プラスチック対応焼却炉の「SPZモデル」と「SPIIモデル」を発売した。それぞれ既存機種「MDZモデル」と「MDPIIモデル」をラモデル

廃プラ対応焼却炉「SPZモデル」



ルチェンジしたもので、燃焼性・耐久性・安全性・使いやすさを向上させた。今年度は各120台の販売を目指す。

両新モデルについては、燃焼用エアーのバランスを見直すことで、燃焼性を向上。鋼板や耐火材壁を厚くして耐久性を高めるとともに、随所に補強鋼材を用いて鋼板が熱膨張でゆがむのを防止する

強度アップも行った。集じん室は小型化を図り、新型Wカット集じん室を採用。消煙とじん飛散を従来品と同レベルで削減する。

安全面では、新型の投入扉を採用し、投入扉と本体との隙間から出る未燃焼ガスを大幅に削減。さらに標準装備のタイマー機能により、焼却後の冷却運転を行うことでバーナー等の機器を守る仕組みとした。特にSPZモデルは全面開放扉としたため、大きなごみも楽に投入でき、作業効率を高められる。

両モデルの構造は各

種法規制に適合。「一部地域を除き、行政への届け出や許可の必要はなく、すぐに設置できる」という。

SPZモデルのラインアップは、焼却能力が1時間当たり18ポツ算出、以下同)、29ポツの2機種。このうち29ポツタイプの標準価格は

248万円(税抜き)となっている。一方のSPIIモデルもSPZモデルと同様の焼却能力で2機種。29ポツタイプの標準価格は228万円(同)だ。